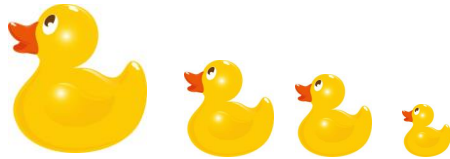


『ある日、アヒルバス』(2008年)

山本 幸久／著 実業之日本社

都内で働くデコこと高松秀子は、アヒルバスに入社して5年目のバスガイド。観光客のわがままに振り回されながらも、お客様のために楽しく街を案内しています。同期の亜紀にメタボギャルと笑われ、ダイエットを試みつつも夜中のピノはやめられない！そんなデコが社内一厳しい大先輩・戸田と共に新人研修の指導員に抜擢されます。

個性的な新人&遅々として進まない研修。どんなに疲弊していても仕事に励むデコに、元気をもらえます。



『神去なあなあ日常』(2009年)

三浦 しをん／著 徳間書店

生まれも育ちも横浜の都会っ子の勇氣は、高校の卒業式当日に、突然、田舎への就職が決まっています。就職先は、三重県中西部にある神去村の中村林業株式会社というところ。知識も経験もない林業、しかも山奥過ぎて携帯電話も通じないという新生活に、勇氣はまいってしまいます。はじめのうちは逃げ出したい気持ちで一杯だった勇氣ですが、個性豊かな村人たちと触れ合っていくうちに、だんだんと神去村や林業になじみ、成長していきます。



『タルト・タタンの夢』(2007年)

近藤 史恵／著 東京創元社

ビストロ・パ・マルはカウンターが七席、テーブルが五つという小さなレストランである。そのため従業員もたったの四人だ。店長で料理長でもある三舟シェフのつくるフランス料理は客の心と舌をがっちりとつかんでいる。

〈パ・マル〉にはたまに、お客とともに不思議な出来事や謎が持ち込まれる。なぜ、フランス人の恋人は最低のカスレをつくったのか。なぜ、常連の西田さんは体調をくずしたのか。

三舟シェフは料理の知識で鮮やかに謎を解き明かす。



『ヒポクラテスの誓い』(2015年)

中山 七里／著 祥伝社

「あなた、死体は好き？」

単位の足りない内科志望の研修生・^{つがの}梶野真琴は法医学教室で外国人の法医学教室准教授キャシーに突然尋ねられる。そこで読まれた「ヒポクラテスの誓い」と呼ばれる誓文には患者を生きているものと死んでいるものとで区別をしていないと書かれている。単位のため法医学教室に来た真琴だったが、死体は嘘を吐かないと主張する偏屈な老人医学者^{みつざき}光崎藤次郎とともに生きた死体を解剖し、事件の真相に近づいていく。



『あぼやん』(2008年)

新野 剛志／著 文藝春秋

旅行会社で働く独身で30歳まぢかの遠藤慶太は、異動で成田空港支所勤務となった。空港勤務のスタッフは「あぼやん」と呼ばれ、出世コースから外れている。やる気を失った慶太だが、航空券のトラブルやクレマーにも全力でぶつかるスタッフといっしょに働くうちに、なんとしても笑顔で旅客出発させる「あぼやん」に魅力を感じはじめる。きびきび働く女子スタッフたちが魅力的。慶太の恋のゆくえも気がかりだ。



『ハケンアニメ!』(2014年)

辻村 深月／著 マガジンハウス

ハケンアニメとは、同時期に放映されたアニメの中で、一番良かった=「^{はけん}覇権を取った」と言われるアニメの事です。

プロデューサー・香屋子は魔法少女ものでハケンアニメを狙うのですが、製作途中で監督と連絡が取れなくなってしまい、大慌て。

同じ頃、ロボットものでハケンアニメを目指す監督・瞳は、実力のないアイドル声優を責めて泣かせてしまいます。

一方、アニメーター・和奈は、アニメの舞台である自治体とイベントを企画するのですが、アニメに詳しくない公務員と話が合わず、上手いきません。

アニメを愛する大人たちが一生懸命にアニメを作り上げる物語です。

